

# 豊かな演奏表現に結びつく 楽式と分析

名曲がどのように書かれているのか  
その構成を理解する方法を学びましょう

かつて学んだ「楽式(音楽形式)」について、分析を通して見直してみませんか? 楽式を知り、分析することは楽曲を深く理解するための大きな手がかりとなります。「大作曲家が書いた譜面をより深く読みこみ、そこに描かれている音の世界に想いを巡らせること」そして「音楽的な演奏に結びつけること」ができればさらに豊かな音楽の世界を実感できるのではないのでしょうか。普段あまり意識しない作品の構成を知り、最終的にはご自分で楽曲分析をするコツを見つけていただけたら幸いです。



柳田孝義

(やなぎだたかよし)

作曲家、文教大学名誉教授。札幌生まれ。管弦楽、室内楽、合唱、吹奏楽、独奏曲など JASRACに登録された作品数は170曲以上。武蔵野音楽大学、同大学院でクラウス・プリングスハイムに作曲を師事。大学院修了後、ミュンヘン音楽大学に入学、ハラルド・ゲンツマーに作曲を学ぶ。第38回日本音楽コンクール作曲部門第1位作曲賞。第52回、第54回文化庁芸術祭優秀賞。2006年第1回 F. Ticheli 国際作曲コンテスト(ニューヨーク)で第3位入賞。日本音楽著作権協会、日本現代音楽協会、日本作曲家協議会のいずれも正会員。日本電子キーボード音楽学会代表幹事、文教大学教育学部長などを歴任

## <講座内容>

- ◎音楽の生まれるとき ～ 楽想、主題の書かれ方について ショパン:ピアノソナタ 他
- ◎基礎形式、複合形式 ～ 楽節とは? バッハ:フランス組曲、シューベルト:歌曲 他
- ◎変奏曲形式 ～ 様々なスタイルの変奏曲 バッハ:ゴルトベルク変奏曲、ショパン:子守歌  
ラフマニノフ:パガニーニの主題による狂詩曲 他
- ◎ソナタ形式 ～ 古典派、ロマン派:ベートーヴェン:ピアノソナタ ワルトシュタイン  
ショパン、シューマンのピアノソナタ 他
- ◎対位法様式 ～ 和声法との交差する世界 バッハ:インヴェンション第13番
- ◎近代フランスの様式 ～ ドビュッシー:亜麻色の髪の乙女、ラヴェル:ソナチネ など

●日時

●テキスト

『名曲で学ぶ 楽式と分析』(音楽之友社)

\*当日会場でも販売いたします。

●会場

●お問合せ・お申込み先

●受講料(税込)

キリトリ線

柳田孝義 公開講座

年 月 日 ( )

豊かな演奏表現に  
つながる楽式と分析

申込書

		申込日	月	日
お名前				
ご住所	〒			
TEL		FAX		
E-Mail				
種別				

※〇印をおつけください。ご記入いただいたお客様の個人情報は、この講座の控えとしてのみ使用させていただきます。